

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成28年9月1日(2016.9.1)

【公表番号】特表2015-528035(P2015-528035A)

【公表日】平成27年9月24日(2015.9.24)

【年通号数】公開・登録公報2015-059

【出願番号】特願2015-521068(P2015-521068)

【国際特許分類】

C 0 9 D 1/00 (2006.01)

C 0 9 D 5/18 (2006.01)

B 0 5 D 5/00 (2006.01)

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 1/00

C 0 9 D 5/18

B 0 5 D 5/00 E

B 0 5 D 7/24 3 0 3 B

【手続補正書】

【提出日】平成28年7月8日(2016.7.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

微細膨積バーミキュライト粒子の水性懸濁液を含む、耐火および/または防火特性を有するスプレー塗料であって、前記バーミキュライト粒子が、化学的に剥離されたバーミキュライトと熱的に剥離されたバーミキュライトとの混合物よりなり、化学的に剥離されたバーミキュライトは、全バーミキュライト含有量の75重量%～99重量%であり、熱的に剥離されたバーミキュライト含有量が、全バーミキュライト含有量の25重量%～1重量%である、スプレー塗料。

【請求項2】

請求項1のスプレー塗料において、化学的に剥離されたバーミキュライトは、全バーミキュライト含有量の88重量%～96重量%であり、熱的に剥離されたバーミキュライト含有量が、全バーミキュライト含有量の12重量%～4重量%である、スプレー塗料。

【請求項3】

請求項1又は2のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、化学的に剥離されたバーミキュライトは、全バーミキュライト含有量の約95重量%であり、熱的に剥離されたバーミキュライト含有量が、全バーミキュライト含有量の約5重量%である、スプレー塗料。

【請求項4】

請求項1～3のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト粒子が、1nm～1000μmの粒度を有している、スプレー塗料。

【請求項5】

請求項1～4のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、300μm以下の最大粒度を有する膨積バーミキュライトを含んでいる、スプレー塗料。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト粒子は、 $50 \mu\text{m} \sim 300 \mu\text{m}$ の D 90 を有し、好ましくは、 $100 \mu\text{m} \sim 250 \mu\text{m}$ 、より好ましくは、 $150 \mu\text{m} \sim 200 \mu\text{m}$ である、スプレー塗料。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト粒子が、 $100 \mu\text{m} \sim 250 \mu\text{m}$ の D 90 を有する、スプレー塗料。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト粒子が、 $150 \mu\text{m} \sim 200 \mu\text{m}$ の D 90 を有する、スプレー塗料。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、約 3 重量 % ~ 約 40 重量 % のバーミキュライトを含む、スプレー塗料。

【請求項 10】

請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、約 10 重量 % ~ 約 30 重量 % のバーミキュライトを含む、スプレー塗料。

【請求項 11】

請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、約 15 重量 % ~ 約 25 重量 % のバーミキュライトを含む、スプレー塗料。

【請求項 12】

請求項 1 ~ 11 のいずれか一項に記載のスプレー塗料において、前記バーミキュライト懸濁液が、約 20 重量 % のバーミキュライトを含む、スプレー塗料。

【請求項 13】

請求項 1 ~ 12 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、ブルックフィールド試験機ナンバー 6 ボブで回転速度 20 rpm として計測したときに $5,500 \text{ c p s} \sim 10,000 \text{ c p s}$ の範囲の粘度を有する、スプレー塗料。

【請求項 14】

請求項 1 ~ 13 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、ブルックフィールド試験機ナンバー 6 ボブで回転速度 20 rpm として計測したときに $8,000 \text{ c p s} \sim 9,000 \text{ c p s}$ の範囲の粘度を有する、スプレー塗料。

【請求項 15】

請求項 1 ~ 14 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、ブルックフィールド試験機ナンバー 6 ボブで回転速度 20 rpm として計測したときに $8,400 \text{ c p s} \sim 8,700 \text{ c p s}$ の範囲の粘度を有する、スプレー塗料。

【請求項 16】

請求項 1 ~ 15 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、ブルックフィールド試験機ナンバー 6 ボブで回転速度 20 rpm として計測したときに $8,500 \text{ c p s} \sim 8,600 \text{ c p s}$ の範囲の粘度を有する、スプレー塗料。

【請求項 17】

請求項 1 ~ 16 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、少なくとも 6 か月間、懸濁液中に残存するバーミキュライトとともに保存部に安定して残存する、スプレー塗料。

【請求項 18】

請求項 1 ~ 17 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、少なくとも 12 か月間、懸濁液中に残存するバーミキュライトとともに保存部に安定して残存している、スプレー塗料。

【請求項 19】

請求項 1 ~ 18 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、少なくとも 24 か月間、懸濁液中に残存するバーミキュライトとともに保存部に安定して残存する、スプレー塗料。

【請求項 20】

請求項 1 ~ 19 のいずれか一項に記載のスプレー塗料が、3 つの層にスプレーすること

によって用いられるとき、BS 776 Part 6 および / または 7 の最も厳しい試験に合格する、スプレー塗料。

【請求項 2 1】

基材に対して耐火または防火特性を付与するための方法であって、前記いずれかの請求項に記載のスプレー塗料を前記基材にスプレーすることを含む、方法。

【請求項 2 2】

請求項 2 1 に記載の方法であって、前記基材が木である、方法。

【請求項 2 3】

請求項 2 1 または 2 2 に記載の方法であって、前記スプレー塗料が、主要なセメント系耐火構造コーティングに対する補助層として用いられない、方法。

【請求項 2 4】

請求項 2 1 ~ 2 3 のいずれか一項に記載の方法であって、前記スプレー塗料が、1 以上のコーティング内の前記基材に直接用いられる、方法。

【請求項 2 5】

請求項 2 1 ~ 2 4 のいずれか一項に記載の方法であって、前記カラーコーティングまたは装飾層が、前記スプレー塗料上に用いられる、方法。

【請求項 2 6】

請求項 1 ~ 2 0 のいずれか一項に記載のスプレー塗料の 1 種以上のコーティングによってコートされた基材。